Japanese
Church Order
58-1007

教会の秩序

ジェファソンビル　インディアナ州　アメリカ合衆国
1958年10月07日

www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される」."　黙示録　10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり）

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

教会の秩序

1　私たちは幕屋（タバナクル）での5夜にわたる大きな集会を終えました。神の恵みと助けによって、私は聖書に基づき、主イエス・キリストの教会を、このブラナム・タバナクルで私たちが信じているとおりに整えるために、最善を尽くしてまいりました。

まず最初に申し上げたいのは、私が不在の間は、牧師が常にタバナクルの完全な責任を担っているということです。そして、私が戻ったときには、その牧師を尊重し、従います。ですから、私の不在中は、聖霊の導きのもとで、牧師が最善と考えることを自由に行い、必要に応じて変更するすべての権限を持っています。

2　私たちは、使徒的な教えを持つ教会、そしてこの時代の人々のために使徒的な祝福がある教会を信じています。私たちは完全な福音を信じており、また、私たちの主イエス・キリストが語られたすべてのしるしと不思議が、主の教会に伴い、主が再び来られる時まで続くことを信じています。私たちはこれらのことを信じており、さらに、それらは正しく秩序立てられるべきであるとも信じています。教会には教会の秩序があるからです。そして、それぞれの教会には、それぞれの教理と秩序と規律があります。

私たちの教会は、加入者という意味での会員制度を持っていません。私たちは、生ける神の普遍的な教会全体が、私たちの兄弟姉妹であると信じています。そして、どの教派に属している人であっても、インディアナ州ジェファソンビル、エイス通りとペン・ストリートにあるブラナム・タバナクルでは、いつでも歓迎されると信じています。

3　私たちは、ローマ5章1節にあるように、信仰による義化を信じています。信仰によって義化された人は、主イエス・キリストとの平安を持つようになると、私たちは信じています。しかし同時に、その同じ人が、飲酒や喫煙、またしてはならないことをしたり、肉の汚れた習慣をなお持っていることもあり得ると考えています。

それから私たちは、イエス・キリストの血が、この人を主の奉仕のために聖別すると信じています。そして私たちは、ヘブル13章12節と13節に従って、聖別を信じています。すなわち、「それでイエスも、ご自分の血によって民を聖別するために、門の外で苦しみを受けられた」のです。私たちはまた、この聖別が新約聖書の中で教えられており、今私たちが生きているこの新約時代を通して、

信じる者たちのためのものであると信じています。

さらに私たちは、その人が聖別された後には、汚れた習慣がその人から去ると信じています。その人は主イエスを信じる者であり、その悪い習慣が取り除かれたのです。そうして初めて、その人は聖霊のバプテスマの候補者になると、私たちは信じています。聖霊のバプテスマとは、信じる者の内に満ちることとして来るのです。そして信じる者が……

私はこれを何度も教えてきましたが、ちょうど鶏小屋の庭にあるコップを拾い上げるようなものです。義化とは、そのコップを拾い上げて、これから用いるために備えることです。そこには心の中の目的があります。それが、神が罪人に対してしてくださることです。しかしその人は、なお汚れているのです。

それから、その人はイエス・キリストの血によってきよめられます。そして「聖別する」という言葉は複合語で、「きよめられ、奉仕のために取り分けられる」という意味です。旧約では、祭壇がその器を聖別し、その器は奉仕のために取り分けられました。

4 私たちは、聖霊がその同じ器を実際の奉仕へと入れるのだと信じています。すなわち、聖霊は恵みの別の段階ではなく、むしろ同じ恵みがさらに満ちあふれて、信じる者のうちに、Ｉコリント12章で語られている使徒的な賜物のようなしるしと不思議が現れるようになるのだと信じています。聖霊が来られて、それらの賜物を働かせるのです。

私は、聖書が「賜物と召しとは、取り消されることがない」と教えていると信じています。私たちはこの世に生まれる時、神による一つの目的のために遣わされて来るのです。そして、まだ大人になる前、子どもであるうちからでも、神からの賜物はすでに私たちの内にあるのです。ただ、聖霊に満たされることによって、それらの賜物が実際に働き始めるのです。けれども、それ自体は最初から与えられているのです。たとえば、教師、使徒、預言者、異言の賜物、そしてＩコリント12章にある九つの御霊の賜物などです。私たちは、これらの賜物が今日でも働いていると信じていますし、また、それらはそれぞれの地方教会の中にあるべきだと信じています。

しかしその一方で、世界中を見ますと、使徒的信仰を告白する人々の中に、多くの熱狂主義が入り込んでいることも私たちは見てきました。それは他の教派や系統においても同じで、どこにでも狂信的な人々はいるものです。これは昔からずっとそうでしたし、時代を通してそのようなことはありました。使徒時代にもそれはありました。パウロが語っているように、ある人々は入って来て、ほ

かの教理によって信者たちを惑わせていったのです。しかし、彼は自分の教えの中で、たとえ天からの御使いであったとしても、自分が教えたこと以外のことを教えるなら、「のろわれよ」と言いました。

5　ですから、私たちブラナム・タバナクルは、ここエイス通りとペン・ストリートにおいて、新約聖書の教えに従おうと努めています。というのは、私たちはイエス・キリストが神の御子であると信じており、また使徒パウロが、異邦人の教会を整えるために遣わされた、神の選びによる召された器であったと信じているからです。

さて、私たちブラナム・タバナクルは、水のバプテスマについては、主イエス・キリストの御名による浸礼を信じています。それは聖書における使徒的な教えだからです。そして、ブラナム・タバナクルに属する人、あるいはここに来られる人で、それを望まれる方はいつでも、主イエスの御名によって浸礼を受けたいと願うなら、牧師に相談することができます。そして、その人が悔い改め、主イエス・キリストを信じているなら、牧師はできるだけ早く、可能であればその場ですぐにでも、その人にバプテスマを授けます。これによって、その人は信者たちの交わりの中へと導き入れられるのです。

私たちは、水のバプテスマによって信者の交わりの中へ導き入れられると信じています。しかし、聖霊のバプテスマによって、私たちはイエス・キリストのからだの一員とされるのです。そしてそのからだは、全世界に広がっています。

6　私たちはまた、御霊の現れは、すべての人に益を与えるために与えられていると信じています。ですから、これらの賜物などが教会の中で働くとき、私たちは、御霊によって賜物を与えられている人々が私たちと共に集い、礼拝することを切に願い、また歓迎しています。

ところが多くの場所で見られるのは、こうした賜物が人々の内にあっても、その人たちが、それをどのように、またいつ用いるべきかを理解していないということです。そして、そのような用い方をすると、ただ非難やつまずきを招くだけになってしまいます。私たちは、それこそサタンが行いたいことだと考えています。つまり、この時代に神が教会に与えてくださったすばらしい祝福を、外の人々や未信者たちに恐れさせるためです。

パウロはこう言いました。「もし、初めて来た人が私たちの中に入って来たとき、みなが異言を語っていたなら、その人は『この人たちは気が狂っている』と言って出て行ってしまわないでしょうか。しかし、もしだれかが預言して、心の秘密を明らかにするなら、その人はひれ伏して、『まことに神があなたがたと共に

おられる』と言うでしょう。」

7　私たちは、信者たちの間に霊的な賜物があることは、この時代における当然の秩序であると信じています。ある人が霊感のもとで説教したり、あるいは霊感を受けた教師であったりしながら、その一方で、癒しの賜物や、預言の賜物や、異言や、その異言の解き明かし、またそのほかのこのような賜物を否定するということは、私たちには信じることができません。

ですから、ここに述べるのが、神の御言葉に対する私の信じるところであり、また、ここジェファソンビルのエイス通りとペン・ストリートにあるブラナム・タバナクルが、どのように運営されるべきかという私の考えです。まず第一に、私が今述べているこれらのことは本質的に重要なものであり、ブラナム・タバナクルが主にあって栄えるためには、このような形で実行されなければならないと、私は考え、また信じています。

そして、もしこれらのことについて、いつでもだれかが疑問を持つようなことがあれば、その件について問われている人は、牧師のところへ行けない場合には、私に相談してもかまいませんし、あるいは牧師に相談してもよいのです。私が旅から戻って家にいる時には、信徒の方であれ牧師であれ、どなたに対してでも、いつでも喜んでお手伝いしたいと思います。これらのことは聖書に基づくものであり、私はこれが教会の秩序であると信じています。

8　私はまず第一に、ブラナム・タバナクルのすべての会員、あるいはすべての礼拝者が、互いに対して神の愛のうちに深く結ばれているべきだと考えます。それは、夜の礼拝が終わって別れて行かなければならない時に、互いのことを慕い合い、その心が互いを恋しく思うほどであるべきだということです。私は神の愛を本当に信じています。使徒パウロは、それが聖霊の証拠であると言いました。「このことによって、すべての人が、あなたがたがわたしの弟子であることを知るのです」とイエスは言われました。「あなたがたが互いに愛し合うならば」です。

そして私たちは、神の愛こそが、イエス・キリストをこの地上に遣わし、私たちすべてのために死なせたのだと信じています。「神はそのひとり子をお与えになったほどに、この世を愛された。それは彼を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を持つためである」のです。そして、ここでいう永遠の命とは、神ご自身の命です。なぜなら、私たちは聖霊のバプテスマによって神の息子、娘となるからです。それはアブラハムの子孫であり、アブラハムがまだ割礼を受ける前に神を信じた、その信仰を私たちにも与えるのです。

とを本当にうれしく思っています。そして、聖霊が、確かに皆さんに語られたことだと証明してくださるすべてのことについて、私たちは全面的に協力します。

私たちは皆さんを愛しています。そして、これらの賜物が皆さんの内にあることを信じています。もしそれが正しい機会と、聖書にかなった形で表されるなら、皆さんは私たちの中にあって大いに用いられる働き手となるでしょう。

主が皆さんすべてを祝福してくださいますように。それが私の心からの祈りです。

32　クリスチャンの皆さん、このテープを聞いていただいた中で、ひとつ付け加えておきたいことがあります。それは、異言が語られる際には、聖書に従って二つ、あるいは三つの順序の中で行われるべきだということです。つまり、一つの集会の中で語られるメッセージは、二つか三つまでに限られるということです。それ以上は語られるべきではありません。聖書には、「これらは二つ、または三つの順序でなされるべきである」とあります。

ですから、これらのことを、聖霊がその聖書の中で導いておられるとおりに、実行していただきたいのです。これは、私の知る限りにおいて、最も正しいやり方です。パウロも、「語るときは、順序を守り、二人か三人によってなされるように」と言っています。

主があなたがたを祝福してくださいますように。

は、いっそう容易になります。

それから聖霊は御言葉の中に入り、その御言葉を教えられます。そして、その御言葉はすでに賜物によって現されているのです。その後に祭壇への招きがなされます。そのとき、多くの人が聖霊の働きと、牧師が据えて語る神の御言葉とによって、あなたがたが生ける神の教会であることを見て知るようになります。そして、昔パウロが言ったように、「その人はひれ伏して、『まことに神があなたがたの中におられる』と言う」のです。

これらのことは、すべて敬意をもって、厳かに行われなければなりません。

30 そして今、この時において牧師であるネヴィル兄弟に対して申し上げます。覚えておいてください。彼はこの教会の完全な責任者です。ネヴィル兄弟は、聖霊が語らせるどんなことでも語る権利、すなわち、聖霊が彼に導かれるすべてのことを行う権限を持っています。教会において、神が彼に導いて行わせるどんなことに対しても、彼にはその権利があります。

また、彼は執事会に対しても権限を持っています。聖霊に導かれていると感じるなら、執事会や管理委員、ピアニスト、その他教会のあらゆる役職について変更することもできます。そして、彼が行うことは何であれ、私はそれを認めます。なぜなら、彼は敬虔な人であると私は信じているからです。それを主からのものとして受け入れ、支持します。

ですから彼には、自分が導かれていると感じるとおりに教会を運営する権限が与えられているのです。また、教会のどの役職についても、人の配置を変えることを望むなら、その権限があります（もちろん、これらのことは常に愛のうちに行われ、実際にはあまり用いられる必要がないことを願っています）。

31 どうか主が、皆さん一人ひとりを祝福してくださいますように。そして、これらのことが、皆さんの最善の理解と努力をもって実行されることを私は願っています。聖霊が、皆さん一人ひとりを見守ってくださいますように。

また、教会のすべての役員が、それぞれ自分の持ち場を忠実に果たしますように。神は、あなたが教会において自分の務めをどのように果たしたかについて、あなたに責任を問われるのです。その一人ひとりが申し開きをしなければなりません。

そして、信徒の皆さん、また、私たちの教会にいる愛する賜物を持った聖徒たち、すなわち預言する人、異言を語る人、解き明かしをする人、あるいは啓示を受ける人たちについて言えば、私たちは、皆さんがこの教会にいてくださるこ

9 次に、私たちは、このような礼拝者たち、すなわち異言を語る人々、啓示や解き明かしを受ける人々、またそのほかの賜物を持つ人々は、共に集まるべきだと信じています。こうした会員、いや、むしろこうした信者たちは、礼拝が始まる少なくとも45分前、できれば1時間前には集まっているべきです。教会は早めに開けられるべきであり、信者たちはその夜の集会のために集まり、少なくとも45分から1時間前には来ているべきなのです。

10 私は、ブラナム・タバナクルには常に、聖霊に満たされたピアニストがいるべきだと信じています。その人は早めに来て、聖霊に満たされ、静かに、本当に静かに、霊的な音楽を弾くべきです。たとえば、

救い主が死なれた十字架のもとで、

罪からのきよめを求めて私は叫んだ。

そこでその血が私の心に適用された。

御名に栄光あれ。

といったようなものです。あるいは、「主よ、みもとに近づかん」「岩なる主よ、わがために裂かれし方よ」「十字架の近くで」といった、そのような趣の曲です。それを静かに、ゆっくりと弾くのです。そしてその間ずっと、聖霊のうちに黙想しているべきです。その人が男性であっても女性であっても構いません。

それから私は、入って来る礼拝者たちは迎えられるべきであり、上着や帽子を預かってもらい、席まで案内されるべきだと信じています。そしてそれは、ただ聖霊に満たされた案内係や執事たちだけができるような、あの温かいもてなしをもって、愛のうちになされるべきです。それによって、生ける神の教会が正しく進んでいくのです。

11 このような礼拝者たちは、教会の中で互いに話し合ったり、向こうこちらで声を掛け合ったり、騒がしくしたりしてはなりません。

彼らは共に集まったなら、まず静かな祈りに入るべきです。たとえば祭壇のところに進み出て、しばらくの間、黙って祈るのです。大きな声で祈ってはいけません。そうすると他の人のさまたげになるからです。静かな祈りをするのです。あなたはいま礼拝しているのですから。そのことがあなたの内に深く染み込むようにしなさい。霊のうちに礼拝し、それから自分の席に戻るのです。

あるいは、必ずしも祭壇に行く必要はありません。ただ中に入って席に着

き、音楽に耳を傾け、目を閉じ、頭を垂れて、静かにしながら、ずっと神を礼拝していればよいのです。

12　そして、もし御霊がだれかに何かを示されたり、ある人が御霊に満たされて異言を語るような状態になったなら、その人は立ち上がってメッセージを語るべきです。そして、解き明かしが来るまでは、すべての人が静かにしていなければなりません。

解き明かしが与えられるとき、それはただ聖書の言葉を繰り返すだけであったり、意味のないものであってはなりません。それは教会に向けられたメッセージであるべきです。そうでなければ、それは肉によるものだと私たちは考えます。実際、そのようなことが多く見られるのです。私は、御霊はただ教会の徳を高めるために語られるべきだと信じています。

13　そして今、それはたとえばこのような内容のメッセージになるでしょう。その頃には人々が集まって来ていて、病気の人が何人か来ているかもしれません。あるいは、これまで一度も見たことのない、体のまひした人が横たわっているかもしれません。そうした時に解き明かしが来るなら、あるいは今異言を語ったその人を通して語られるなら、それはたとえばこのようなものです。

「さて、主はこう言われる。今、私たちの中にいるこの人は、どこどこから来た者である。」

そして、その場所のことが語られるのです。さらに、その人がまひしているのは、3年か4年前、あるいはその事情がどうであれ、その人が悪いことをしたからだ、と示されるのです。たとえば、自分の妻や子どもたちを捨てて逃げ去ったとか。その後、その人は高い足場のようなところから落ちたのか、あるいはそれに似た事故に遭って傷を負い、そのためにまひしてしまったのだ、と。

そして、

「主はこう言われる。もしこの人がそのことを悔い改め、自分の妻のもとへ帰って彼女と和解することを約束するなら、今この時に彼は癒され、家族のもとへ帰るであろう。」

というような内容になるのです。

14　そして、だれかがそれについて何かを言う前に、建物の中に少なくとも二人、あるいはそれ以上の人がいて、その人たちは福音の教理において霊的にしっかりしており、霊を見分ける良い識別力を持っていて、立ち上がって「これは

る前に行うべきです。

27　それから牧師は、その賛美をリードした後、すぐに教会を祈りへと導くべきです。演壇に立ったまま、自ら会衆の祈りを導き、ほかの人々には頭を垂れて祈るように求めます。

私たちは、この方法がより大きな祝福をもたらし、教会の中でより秩序正しく働くことを見てきました。

そして次に牧師がすべきことは……もしその集会が本当に霊的なものであり、賜物によって人々の心の秘密や、なされるべきことが多く現されているなら、その時すでに神の御霊はその集会の中におられるのです。そうなると、牧師にとっては、神の御言葉を読み、説教を始めるときに、すでに集会の中におられる神の御霊を見いだすことが非常に容易になります。

そして牧師は、そこに立って、聖霊が心に置かれることをそのまま語り、聖霊が導かれるままに自由に説教するのです。

28　しかし会衆は、ただ……もちろん、牧師が説教している間に喜んだり、御言葉が語られる時に「アーメン」と言ったりすることはできます。けれども、聖霊が牧師を通して働いておられる最中に、立ち上がって異言のメッセージやその解き明かしを語ることについては、聖書はそれを戒めています。そして、「預言者たちの霊は、預言者たちに従う」と言っています。

そのような場合、牧師はその人を静めて、礼儀を守り、自分の立場をわきまえるよう求めなければなりません。牧師はとてもへりくだった態度を持つ人でなければなりません。しかし、教会の中で誤ったことが行われているのをご覧になった時の主イエス・キリストのように、必要な時には正すことができないほどに弱々しくてはなりません。主は縄でむちを作り、彼らを教会から追い出されました。

そして神の教会はさばきの家であり、牧師は教会の中で最も高い務めを担う者です。使徒的教会においては、長老は聖霊を除けば最も高い位置にあります。聖霊はご自身のメッセージをまっすぐにその長老へと与え、そして長老がそれを人々に伝えるのです。

29　聖徒たちとその賜物は、まず最初にその持ち場において、共に集まり礼拝するべきです。それによって（先に述べたように）主の御霊がその建物の中に来られ、牧師のために備えられるのです。そして、そのような深い霊的な集会が、御言葉の教えの前にすでに行われているとき、聖霊が牧師を通して働くこと

があるからです。そして多くの場合、異端的な教えなどを招いてしまい、それは生ける神の教会に属するものではありません。

ですから、牧師はすべての祈祷会、またこのような集まりには必ず関わるべきなのです。

24 そして牧師は、集会の中で決してどちらかの側に立って、「こちらのグループが正しい」「あちらが違う」といった態度を取ってはなりません。牧師はその両者の間に立ち、彼らのもとへ行って、すぐに和解させるように努めるべきです。

もし牧師一人で和解させることができないなら、執事を一人伴って行くべきです。それでもなお、牧師にも執事にも耳を傾けないなら、そのことは教会に告げられるべきです。そしてイエスが言われたように、「その人を異邦人や取税人のように扱いなさい。」またイエスは、「あなたがたが地上で縛ることは天でも縛られ、地上で解くことは天でも解かれる」と言われました。

25 さて、牧師が演壇に上がったなら、まず少なくとも1曲か2曲の賛美をリードし、そのまま御言葉へと進むべきです。

長い証しの時間を設けて、だれもが立ち上がって一言ずつ話すようなことはしないでください。それはブラナム・タバナクルにおいては益になりません。

このテープを聞いている方で、ご自分の教会ではそれがうまくいっているのであれば、それはそれで全く問題ありませんし、そのことを私たちはとても喜んでいます。あなたの教会でそれが益になっているなら、それは良いことです。

しかし、ここ私たちの教会では、それはうまくいかず、ただ混乱を招くだけなのです。私はここで20年以上牧会してきましたが、その結果として、それは混乱をもたらすだけだと分かりました。もし証しがあるなら、御霊が祝福しておられるうちに、あらかじめ会衆の中で語るようにしてください。

26 本当の意味での証しは、教会の中だけでするものではなく、暗い場所でこそなされるべきものです。あなたの光を、暗いところで輝かせなさい。酒場のような場所や、さまざまな場所、罪が満ちているところに行って、そこであなたの光を輝かせなさい。そこが本当に証しをする場なのです。

しかしながら、もし主があなたを祝福し、何か特別な恵みや、人々にぜひ伝えたいことを与えてくださったなら、それは他の時間、つまり前の時間、準備の時間に行いなさい。御霊が祝福しておられ、証しや啓示、異言や解き明かしなどが与えられている、そのような聖徒たちの礼拝の中で、神の御言葉が語られ

主からのものです」と言わなければなりません。

そして、もしそのことが実際に起こらないなら、教会の中で異言は語られるべきではありません。もしだれかが異言を語るなら、パウロが言っているように、「もし解き明かす者がいないなら」など、そのような場合には、「家ででも、あるいはどこででも語りなさい」ということです。なぜなら、その人はただ自分自身を祝福しているだけであって、教会の徳を高めるためではないからです。

15 それから、その人が語り、解き明かしがなされ、さらに聖パウロの教えに従って二人または三人の判断する者によって吟味された後、そのメッセージの中で指し示された人に対して行動が取られるべきです。あるいは、特定の人、たとえば牧師や誰かが指名され、その人がその病んでいる人、あるいは苦しんでいる人のところへ行き、手を置くように導かれることもあります。そしてその人は癒されるのです。

そのとき、牧師であれ他の誰であれ、聖霊によって指名された人が信仰の祈りをささげ、その人に仕えるのです。御霊が語られたとおりに、その人に対して奉仕を行うのです。

そしてその時、聖霊が語られたことは、そのまま直ちに成就します。聖霊が与えられたとおりに実現するのです。そして人々は喜び、感謝し、神を賛美し礼拝することができるのです。なぜなら、神は礼拝されることを望んでおられるからです。

16 それから彼らは再び頭を垂れ、祈りのうちに入るべきです。ほかにも聖霊がこれらの賜物を通して現したいと望んでおられるメッセージがあるかどうかを見るためです。

そして、もしだれかが異言を語り、それが解き明かされ、さらに判断する者たちが、その人に対して「語られたとおりのことを行いなさい」と指示したにもかかわらず、そのことが成就しないなら、その人たちの一団はみな祭壇に行って、その霊を自分たちから取り去ってくださるよう神に祈るべきです。なぜなら、そのような霊を持ちたいと願う者は一人もいないからです。私たちは、それが偽りであり、神からではなく敵から来たものだと知ることになります。神は真実だけを語ることがおできになるからです。

この新しい秩序を始める前に、このことを教会にはっきり理解してもらわなければなりません。

17 そして、たとえばこのような内容のメッセージであるかもしれません。ある兄

弟に対して語られ、その人が線路の近くに住んでいるなら、そこから引っ越すように、といったものです。なぜなら、その路線で事故が起こるから、あるいはそれに類する何かが起こるから、というような内容です。

そして、そのメッセージを語ること、また実行することについて、判断する者たちが教会に許可を与え、「これは神からのものだ」と判断したなら、それが実際に成就するかどうかを見守りなさい。

もしそれが成就したなら、神に感謝しなさい。そして心から深い恵みと感謝をもって神に向かい、神をほめたたえ、礼拝しなさい。そしてへりくだるのです。何よりもまず、へりくだっていなさい。

18 決して、自分が仕えている教会の牧師や教会よりも、自分のほうがよく分かっていると思い上がるようなことがあってはなりません。もしそのような状態になってしまうなら、それぞれが別の礼拝の場所を見つけることを私は勧めます。なぜなら私は、牧師に対して、この教会で私たちが見てきたような聖書の秩序から外れるものを、決して許さないように求めているからです。

そして私たちは、これらの賜物が正しい場所で、正しく用いられ、礼拝者たちの中で働くことを願っています。もし御言葉に従って正しく行われるなら、主イエス・キリストのために、力強く、すばらしい教会が働いているのを見ることになるでしょう。

19 さて、次に行われるべきことはこうです。もし、こうした時にこれらの人々が秩序を乱すようなことがあれば、聖霊に満たされ、心に豊かな恵みを持った執事、あるいは案内係のだれかが、その人のところへ敬意をもって、父親のような態度で行き、このような形で正すべきです。あるいは牧師がそうしてもよいでしょう。しかし、この役目は執事たちが行うほうが、なおふさわしいのです。というのも、このような霊的な礼拝が行われている間、牧師は祈祷室かどこかで祈っているべきだからです。

そして、こうしたメッセージがなく、啓示もない時には、人々は、もし望むなら立ち上がって証しをすることができます。ただし、その証しは神の栄光のためだけでなければなりません。必ずしもしなければならないわけではありませんが、証しは、メッセージが始まる前、あるいは賛美の奉仕が始まる前など、このような礼拝の時の前半に行われるべきです。

教会の皆さん、こうすることによって、御言葉が教えられる前に、教会全体が礼拝の霊の中に入るのだということが分かりますか。そうしてから聖霊が御言葉の中に入り、御言葉を通して神ご自身を現し、あなたがたの礼拝の確証としてくださるのです。

20 それから、その後は牧師が出て来る時間になります。もしその時点でもまだメッセージが続いているなら……たとえば牧師がちょうど7時半、あるいは7時45分に出て来ることになっているとします。もし牧師が書斎、あるいはどこにいるにしても、そこから出て来て演壇に立とうとする前に、なおこれらのメッセージが続いているなら、ある兄弟がそのことを皆に知らせるべきです。というのも、聖徒たちは、牧師が演壇に出て来た時から、それが礼拝のための牧師の時間であることを知っているからです。

そしてそれまでに、賜物の現れがすべて行われ、神の御霊が会衆の中へ導き入れられるための、十分な、また豊かな時間が与えられているのです。

21 そして、もしそこに未信者の人がいて、礼拝の秩序を乱すようなことがあれば、心の優しい人、たとえば案内係や執事がその人のところへ行き、礼拝が整然と行われている間は、静かに、礼儀をもっていてくださるようにお願いするべきです。なぜなら、その建物の中には御霊がおられ、神の賜物が教会の徳を高めるために現されているからです。ですから、その人には愛をもって伝えなければならず、きつい態度で言ってはなりません。

ただし、その人が酒を飲んでいたり、従わなかったり、あるいは神の賜物が現されている主の礼拝を妨げるような、ほかの問題がある場合には、その人を脇のほうへ、たとえば後ろの部屋の一つかどこかへ案内し、そこで親切に話し、適切に対処するべきです。

22 さて、牧師が演壇に上がって来た後のことですが、ここブラナム・タバナクルにおいては、牧師自身が会衆を導いて、少なくとも1曲か2曲の良い賛美を歌うことを私は提案します。というのも、多くの人があれこれと教会の中で動こうとすると、ただ混乱を招くだけになることを、私たちはこれまでに経験してきたからです。

私は、自分がこの教会で牧会していた時には、自分で賛美をリードしていました。そして、牧師が自らそうすることは良いことだと感じています。

23 そして、祈祷会についてですが、いくつかのグループに分かれて集まるような祈祷会においては、牧師が必ずそれぞれに関わるべきです。このような集まりを、個人に任せて指導させるべきではありません。というのも、そのような場合、教理の面で道を外れてしまい、そのまま教会の中に持ち込まれてしまうこと